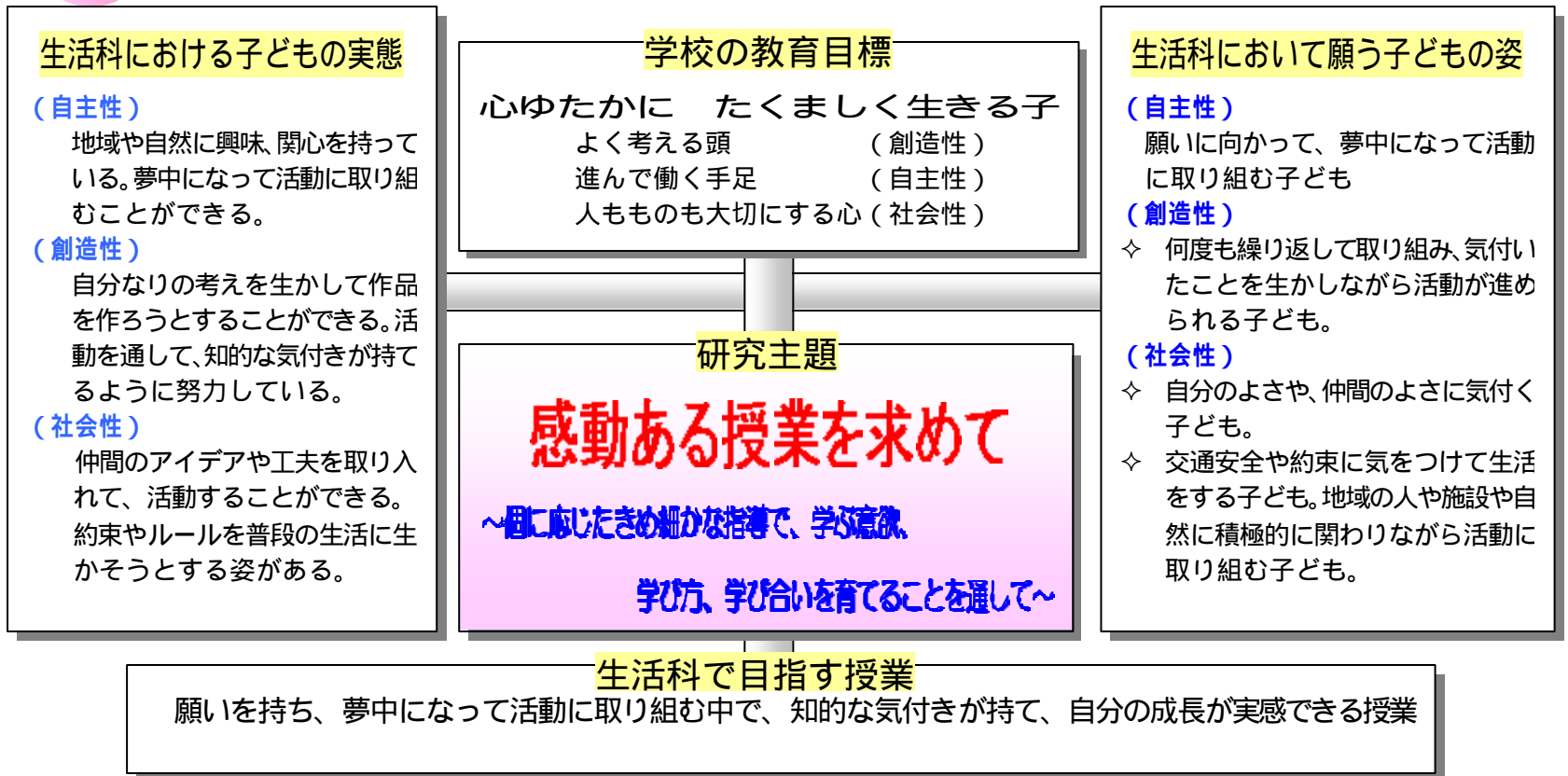


平成15年度 生活科研究構想図



具体的な手だて

学びたいという意欲(自主性)を育てるために	その子なりの学び方(創造性)を育てるために	仲間との学び合い(社会性)を育てるために
<p>1人1人の子どもが「行ってみたい」「作ってみたい」「やってみよう」「育ててみたい」と思えるようにする</p> <p>【研究内容1】 一人一人の子どもが、目的意識を持ち続けることができる、評価の在り方。</p> <p>○一人一人の子どもの意欲につながる自己評価を具体化する。 ○一人一人の子どもの特性をつかむ教師の評価を具体化する。</p> <p>評価規準を明確にした指導計画の作成及び学習指導案の作成する。 個の願いや思いの把握し、より適切に指導・援助ができるように個人カルテ・補助簿の作成する。把握の仕方としては、ノート、作品の内容から、聞き取り調査を通して行う。 願いの評価をし、活動の意欲につなげる。 必要に応じて活動時に学習集団、全体で、作品の交流(自己評価・相互評価)が行えるように声をかける。 終末段階で活動を振り返る時間の位置づける。 よくできたこと、がんばったことなどを発表する。 自分の作品を紹介したり、発見ノートに記入をする。 観点に照らした項目に対してチェックをする。(振り返りカードの活用) また、次の学習への意欲付けを行う。</p>	<p>1人1人の子どもが「自分で作れたよ」「自分でできたよ」「自分で行けたよ」などと思えるようにする</p> <p>【研究内容2】 一人一人の子どもが、自分なりの方法で課題を解決する事ができる、個に応じた指導・援助の在り方。</p> <p>○一人一人の子どもの特性に応じた指導・援助を具体化する。 ○一人一人の子どものつまずきに応じた指導・援助を具体化する。</p> <p>子どもの願いに、沿った活動ができるように、学習過程を整える。(学習の流れ-願い 計画 活動 振り返り 発表会) 子どもの思いや願いを生かしたグループの構成をする。例えば、目的地別、発表方法別、活動内容別など。課題解決のために、活動中においては、活動の様子を共感的に見守り、行き詰っている子、更に良い活動ができそうな子に対して思いを聞いたり、思いを汲み取って助言をし、より良い活動に向かっていけるようにする。 課題解決のために、子どもの願いに沿った環境作りをする。お助けコーナー、ゲストティーチャーなどの活用をし、子どもの活動に対応できる態勢を作る。 成長が確かめられるように同じような活動をレベルアップやステップアップさせて、何回か活動できる場を設定する。</p>	<p>1人1人の子どもが「すごいな」「そうすればいいんだ」などと思えるようにする</p> <p>【研究内容3】 一人一人の子どもが、自分の見方や考え方、技能を高めることができる、学習集団の在り方。</p> <p>○一人一人の子どもの目的に応じた小集団づくりを具体化する。 ○一人一人の子どもの見方や考え方、技能が高まる学び合いの方法を具体化する。</p> <p>仲間のよさに気付く場を設定し、良かったところ、頑張ったところなどを交流したり、自分の活動を更に良くしていけるようにしたりする。 発表会を通して、「なるほど」「すごいな」と感動できるように、発表会を工夫する。</p>
<p>生活科の授業において大切にしていること</p>		
<p>意欲が沸く、関心、興味が持てる、願いが持てる事象の提示を工夫する。 ・実物を提示する、実演をする、つばやきを取り上げる等 必然性のある活動、課題作りをする。</p>	<p>個の願いを発展させていったり、知的な気付きを生かしていけるよう繰り返し活動が行えるようにする。 意識の流れが大切にできる活動内容、活動場所の精選</p>	<p>「名人」を見つけ、ヒントがもらえるようにしたり、活動を助けてくれるような子を価値付けたりして、少しでも児童が相互に意見、情報交流できるようにする。</p>

